

高校現代文を解く前に～筆者の主張を見つける 001 主張は抽象度が高い

筆者の主張を問う設問はよくてますし、文章を読み解く上でも重要です。
短い文章の例文と例題を使って、筆者の主張を見つける練習をしてみましょう。

例文 1

私は洋食屋さんの料理が好きである。
アツアツの鉄板にのってくる焼きたてのハンバーグが好物だ。
そこにクリームコロッケが一緒だとうれしい。コンススープがついていけるとさらにいい。サラダも少しついているとバランスもいい。
食後はコーヒーと小さなケーキがあるとほとんど満点だ。
頻繁には行けないが、たまに行くとこれらの料理は私を最高の気分させてくれる。
よって私は洋食屋さんの料理が好きなのだ。

この例文で、筆者の主張はどこにあるのでしょうか。

「筆者の主張って、だいたい最初か最後にあるんでしょ？塾の先生が言っていた」のような声が聞こえてきそうなものですが・・・

そうです。筆者の主張は、最初の方が最後の方にあることが多いです。

事実、この例文でも筆者の主張は

最初の 私は洋食屋さんの料理が好きである。 と

最後の 私は洋食屋さんの料理が好きなのだ。 とあるので、どちらを選んでも正解ですが、筆者の主張が最初か最

後にくるのには理由があります。

それはレポートや小論文などの評論系の文章は、大まかに次のような構成になることが多いからです。

- ・最初にズバツと結論を述べる。
- ・具体例や理由 1（体験談なども具体例に含めます）
- ・具体例や理由 2（どこからの引用も具体例に含めます）
- ・具体例や理由 3（具体例や理由などがいくつあるのかは文章によります）
- ・最後にもう一度結論でまとめる。

大雑把に言うところのこのような構成になるので、結論つまり主張は最初や最後にくることが多いです。

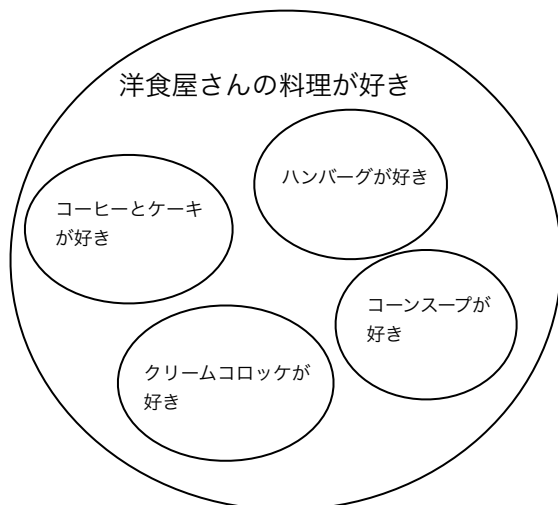
しかし、テストの文章は長い文章の一部を切り取ったものであることも多いので、キリの良く無い箇所でわざと切り取られていると、この法則は使えません。

また随筆などでは、結論を述べた後にも体験談や具体例を述べて、そこで文章を終わりにすることもあります。

ですから、大事なことはどこにあるのかよりも、主張は具体例よりも抽象的である ということですよ。

例文 1 には、ハンバーグが好物 や クリームコロッケがうれしい などいろいろな具体的な料理が好きだという話が並びますが、それと比較すると洋食屋さんの料理が好きだということは、一段抽象度が高いことになりました。

ですから、具体例は筆者の主張ではありません。あくまでも筆者の主張を裏付けるための材料ということになります。
(次のページでまとめと例題です)



まとめ

筆者の主張は具体例ではなく、一段抽象的であることが多い。

筆者の主張は最初の方が最後の方であることが多いが、それに囚われすぎずに、しっかり文章を読む。

これを踏まえておけば、大学入試共通テストレベルの現代文くらいなら、筆者の主張をつかむことができます。では、例題をやって確認してみしましょう。

例題 A 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

「お昼の休み時間は、グラウンドに出て遊びましょう」

教師や学級委員がそう言うたびに、私はいつも心の中で疑問に思っていた。

（だって、休み時間なんだから、基本何をしてもいいんじゃないの？）

でもそうはならない。みんなでミニサッカー、みんなでドッジボール、みんなで鬼ごっこ・・・

参加しないと、その後でまるでこのクラスの一員ではないかのような冷たい視線を浴びることになるのだ。

そう、どこまでも合わせないといけない。みんなに。

大人になった今でもやっぱり思うのは、つくづくこの国は集団行動が好きだということ。

場合によってはそれをちよつと息苦しいことだと感じる。

でも、教師や生徒の多くは授業時間はもちろんのこと、休み時間もみんなで動かないと気が済まないのだろう。

（縞井 一樹「いびつな真珠を上手く弾く」より）

問 この文章で筆者の主張は何か。次の選択肢から選びなさい。

- 1 休み時間をもっと自由に過ごしたいが、そうさせてくれなかった教師を今でも恨んでいる。
- 2 この国はみんなで一緒に同じ行動するということが好きだが、それは時には窮屈だ。
- 3 休み時間にまで集団行動をさせるのは、休み時間の過ごし方の本質から外れている。
- 4 みんなで行動するという学校教育は、その後の社会への適応能力のためには必要である。
- 5 教師も生徒たちも、授業でも休み時間でも集団行動をしたい人が多い。

ポイント解説と解答

具体例と、それより抽象度の高い主張ということに注目します。

具体例… 休み時間でも、みんなでミニサッカー、みんなでドッジボール・・・

主張… つくづくこの国は集団行動が好き

← 具体例… 参加しないと・・・冷たい視線を浴びるから、合わせないといけない。

主張… （みんなに合わせることは）場合によっては息苦しい。

このように具体例と一段抽象の主張という構成になっていますね。

ということは、もうおわかりかと思いますが、学校での出来事は筆者の主張ではありません。筆者の過去の体験談を踏まえたあくまでも具体例だということになります。

よって答えは、2 です。

他の選択肢はどれも具体例の学校のことに言及しています。

特に、3 や 4 のような、一般論としては正しそうなことを言っている選択肢には要注意です。

5 は本文に書いてありますが、具体例をそのまま書いてあるだけで筆者の主張ではありません。

高校現代文を解く前に～筆者の主張を見つける 002 わざと比較材料をだす（譲歩）
 前のページでは筆者の主張は一段階抽象的であるということ学びました。
 今回は二つの事柄を比較しながら筆者が主張を展開するパターンを学びましょう。

例文2

もちろん私も日本食が好きだ。

天ぷら蕎麦がおいしいお店の海老天とゴボウ天の揚げ具合はすばらしいし、お寿司屋さんのイクラの軍艦巻きや中トロの握りのおいしさは、普段の食事とは違った満足感を与えてくれる。

だが、私にとってはそれらは行きつけの洋食屋さんのハンバーグには一歩及ばない。

あの洋食屋さんのデミグラスハンバーグが鉄板でアツアツで運ばれてきた時の香りと、一口食べた時のなんとも言えないおいしさは本当に格別である。

したがって私は洋食屋さんが好きなのだ。

この例文2で、筆者の主張はどこにあるのでしょうか。

筆者は日本食も好きで、洋食も好きなのですね。では、いったいどちらの方がより好きなのでしょう。

日本食が好き（具体例は、蕎麦屋の海老天や、寿司屋のイクラ軍艦など）

洋食が好き（具体例は、ハンバーグ）

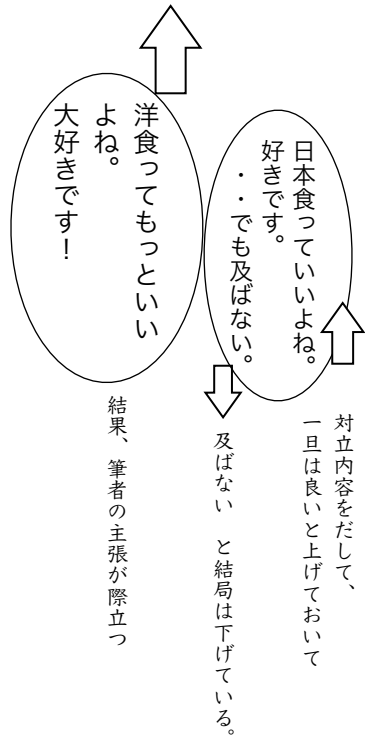
となっていますが、よく読むと、

それらは行きつけの洋食屋さんのハンバーグには一歩及ばない。

と書かれています。この場合の指示語 それら は、蕎麦屋の天ぷらや寿司屋の寿司、つまり日本食のことですね。

そうなる・・・

ちよつと図にしてみましょう。



日本食が好きだが、洋食の方がより好き。

というのが主張ことになります。

筆者は自らの主張である 洋食が好き を言うことために、わざと比較する材料として日本食を出してきたのです。

このように、比較する内容をわざだしておいて、のちに主張したい方を際立たせる手法はよく目にします。

また、この手法は副詞の呼応という文法上からも判断できる場合があります。

今回の場合、もちろん がありますので、一旦持ち上げて褒めておいて、のちに逆接の接続語で下げたり否定に転じることが予測できます。

もちろん日本食は好きだ。だが、洋食には及ばない。

という展開になることが容易に想像できるのです。

この副詞の呼応については、「高校現代文を解く前の知識003・副詞の呼応」のページでも触れていますので、そこらもあわせてご覧ください。

（次のページでまとめと例題です）

まとめ

筆者は、わざと比較内容を出して褒め上げて、あとで下げる。

結果として、筆者が本当に言いたい主張を上げる。

この構成は評論ではとても多いパターンです。何と何を比較していて、筆者の主張はどちらなのかに気をつけて文章をよく読みましょう。

例題をやって確認してみましょう。

例題B 次の文章を読んで、あとの問に答えなさい。

指さばきの良さが必要であるし、軽快さがあり、その中に明るさだけでなく時には深刻さも合わせもった音楽。それがモーツァルトなのだ。たしかにこのような世界観は彼独自のものだろう。

しかし、残念ながらどのソナタも少しづつ似ている。いや、似ているどころか音楽に詳しくない人からしたら同じに聴こえてしまうのも無理はない。

そういう意味では、ベートーヴェンは作品の質に出来不出来があるとしても、個々の作品に個性がある。「悲愴」と「月光」は全く異なる曲である。

だから私は、一つ一つの作品に強力な個性を持たせている彼の方を、古典時代のナンバーワンとしたい。たとえ小品や初期のソナタに質の良く無い作品があるとしても。

(稿井 一樹「いびつな真珠を上手く弾く」より)

問 この文章で筆者の主張は何か。次の選択肢から選びなさい。

- 1 モーツァルトは個々の作品に個性を持たせており、それがベートーヴェンに影響を与えた。
- 2 モーツァルトは天才であり、質の良くない作品もつくったベートーヴェンを上回っている。
- 3 ベートーヴェンはそれぞれの曲に特徴があり、古典時代トップの作曲家である。
- 4 ベートーヴェンの「悲愴」や「月光」は個性はあるが、作品の質があまり良く無い。
- 5 ベートーヴェンは質の良く無い小品などがあるが、「悲愴」や「月光」などは名曲である。

ポイント解説と解答

筆者が比較しているのは、モーツァルトの作品とベートーヴェンの作品ですね。

モーツァルトの作品

一旦上げ主張 … 独自の世界観 と一旦褒めている。

← 結局は下げ主張 … どのソナタも似ている。 と結局少し下げている。

ベートーヴェンの作品

下げ気味の主張 … 小品や初期ソナタに質の良く無い作品もある。 と言っているが、

← 結論は上げ主張 … 一つ一つの作品に強力な個性がある。と褒めている

ですから結論としては、ベートーヴェンの作品はそれぞれ個性があり、古典時代の第一人者ということになります。ということは、もうおわかりかと思いますが、モーツァルトの作品あくまでは比較材料に過ぎず、筆者はベートーヴェンの凄さが言いたいわけですね。

よって答えは、3 です。

1は本文に反しています。2はモーツァルトは天才などという一般論を書いていますし、結論も本文に反しています。4は本文に書かれていない内容です。5は本文から大きく逸脱はしていませんが、筆者の主張ではありません。特に結論が真逆のはずの2や、本文からはそれほど外れていない5に引っかからないようにしましょう。